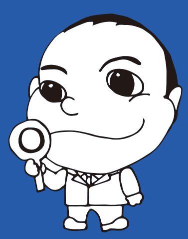
千葉市議会議員〈若葉区〉

前田けんいちろう

市政レポート No.7



千葉市議会令和５年第３回定例会が９月６日から10月３日まで行われ、私も一般質問に登壇し①駅の自由通路について②加曽利貝塚について質問をさせて頂きました。

都賀駅エレベーターなど利用者の目線に立った施設整備を要望

駅の自由通路について

駅の自由通路についてお伺いいたします。

市内の鉄道には、東京方面や県内各方面をつなぐＪＲ線や京成線が通っており、市の中心部と内陸部、臨海部を連絡する千葉都市モノレールがあります。これらの鉄道のうち橋上化されている駅では、自由通路が駅の利用者や横断する方にとって必要なものとなっております。私が活動の拠点としている若葉区の玄関口であるＪＲ都賀駅やモノレール千城台駅にも自由通路があり、千城台駅は商業施設と２階レベルで接続し、様々な用途で利用されておりますので、駅を初めて利用した方に向けた周辺案内などがあると、利便性も向上されるのではないでしょうか。

また、駅は、鉄道や路線バスが乗り入れる交通結節点であることから、乗り継ぎによる利用者も多いため、駅と直結する自由通路に、乗り換えや周辺施設などに誘導する分かりやすい案内表示があれば、迷わずに目的地へ向かうことが出来るのではないかと考えております。私は、普段、都賀駅の駅前広場の清掃活動をしており、選挙時には自由通路で演説などを行っていましたが、その際に、ＪＲの都賀駅を利用する高齢者の方々から、西口のエレベーターは改札口の近くにあるが、東口のエレベーターはモノレール駅舎に設置されていることから、上空の通路で連絡されているものの、離れていて使いづらいなどの声が寄せられました。

そこで、駅の自由通路について、４点お伺いいたします。

１点目に、自由通路の役割と設置されている数について、
２点目に、必要と思われる施設について、
３点目に、利用者からの要望や今後の取組みについて、
４点目に、都賀駅東口のエレベーターについて、
お聞かせください。

答弁：建設局長

はじめに、駅の自由通路についてお答えします。
まず、自由通路の役割と設置されている数についてですが、自由通路は、鉄道利用者に限らず24時間いつでも歩行者や自転車などを押して通れる通路として設置されており、市民の皆様の移動経路の一つとなっております。
設置数については、ＪＲ線は都賀駅など９駅、京成線は幕張本郷駅など２駅、千葉都市モノレールは千城台駅など８駅に、合わせて19か所となっております。

次に、必要な施設についてですが、自由通路は、高齢者や車いす利用者など誰もが利用するため、バリアフリーの観点から、視覚障害者誘導用ブロックやエレベーター等の昇降施設が必要であり、また、安全性や利便性の面から、照明施設や周辺の生活関連施設等を案内する表示板などが必要と考えております。

答弁：建設局長

次に、利用者からの要望や今後の取組みについてですが、「道路のバリアフリー整備計画」の策定にあたり「地域懇談会」や「まち歩き点検」などを通じ、高齢者関係団体や身体障害者関係団体などから、自由通路について「階段のステップ端部が目立たないため境目が見えづらい」、「手すりに点字表記をつけて欲しい」、「エレベーターの操作盤の近くまで視覚障害者誘導用ブロックが欲しい」などのバリアフリーに関する御意見をいただいております。今後、バリアフリー整備計画に基づき、着実に事業を推進して参ります。

次に、都賀駅東口のエレベーターについてですが、既存のモノレール側エレベーターが、ＪＲ改札口と離れて設置されていることから、駅利用者の動向や利便性、既存のスロープとモノレール側エレベーターの更新時期及び将来にわたる維持管理費用などを考慮しつつ、その必要性及び最適な配置について、検討を進めております。

また、駅前広場の線路側は、ＪＲ敷地であることから、ＪＲから意見を伺っているところです。

前田健一郎からの意見と要望

意見と要望を申しあげます。駅の自由通路についてです。ご答弁いただいた内容につきましては、おおむね理解いたしました。

今後の取組みとして、「道路のバリアフリー整備計画」に基づき、バリアフリー施設の充実に向けて、着実に整備を推進していくとのことでしたが、自由通路は、駅利用者や通過する利用者が多く、体の不自由な方も利用されていることから、様々な面で配慮が求められます。

ぜひとも、利用者の目線に立った施設整備を進めていただきますようお願いいたします。特に、都賀駅エレベーターについては、市民の方からＪＲ改札に近い位置への整備を多く要望されましたので、引き続き、関係機関と協議・調整していただくよう、要望いたします。

加曽利貝塚の魅力をより一層高めていく為に安全性と利便性に配慮した計画を要望

加曽利貝塚について

加曽利貝塚では、新博物館の整備に向けた手続きが進められていますが、この新しい博物館は、現在の史跡内から坂月川対岸の小倉浄化センター跡地周辺へと移転するため、博物館と史跡の間を結ぶルートの整備も、併せて必要になります。

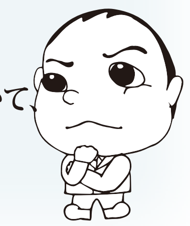
平成30年度に策定したグランドデザインの中では、博物館の敷地と北貝塚の外周路にまたがる吊り橋の構想を示しておりました。しかし、昨年度実施した事業化検討において、国や関係部局と協議を行った結果、坂月川に20メートル程度の橋を設置するとともに、周遊路を整備する方針へと転換しました。これについて、私は「やむを得ない」と理解しますが、従来の構想案に比べ、新たな整備方針では歩行距離が長くなることから、来訪者を退屈させない工夫が求められるのではないでしょうか。地域の皆様や、史跡を見学している利用者の皆様から「ベンチを設置して欲しい」という声を頻繁に伺います。来訪者の満足度を高めるためにも、出来るだけ早期の対応が必要です。

ところで、新博物館が開館したのちは観光バスを利用した団体客が大幅に増加するものと期待しています。一方で、新博物館の敷地内だけでは観光バス用の駐車場が不足する事態のほか、ガイドボランティアからは「史跡を巡ったのちに新博物館を見学したい」という団体への対応を巡って、懸念する声が上がっています。そのため私は、現在、特別史跡の臨時駐車場として利用中の場所について、新博物館とは別に、観光バスの駐停車を前提とした舗装やトイレ休憩施設などの恒久的な整備を進めるべきと考えます。

また、来訪者のアクセスルートも大変気になるところです。新博物館は、年間15万人の入館者が見込まれるなど、加曽利貝塚には市内のみならず県外などからも大変多くの方が来訪されるものと思います。昨年第１回定例会において、周辺道路の不便さの改善についてお伺いしたところ、当局からはモノレール桜木駅から加曽利貝塚史跡までの歩行経路については、地元住民や来訪者の方の安全性を確保しつつ、分かりやすい誘導を行えるよう、道路の安全対策や案内表示の設置などを検討する旨をご答弁いただいたところです。

一方、バスや車でのアクセスルートは主に国道51号や国道51号バイパスとなりますが、国道51号は比較的混雑しており、また、国道51号バイパスを利用した場合は、大きく迂回するか狭い生活道路を経由する必要があり、アクセスルートとして良好とは言い難い状況です。このことからも、国道51号と国道51号バイパスを結ぶ都市計画道路源町桜木線の重要性がより高まってくるものと考えます。この未整備区間がつながりますと、貝塚インターを利用して来られる方やみつわ台方面からの来訪者にとって加曽利貝塚までのアクセスが格段に改善されることから、この源町桜木線の早期事業化は必要不可欠と考えており、その動向が気になるところです。そこで、５点お伺いいたします。

１点目に、坂月川に新設する橋と周遊路の整備イメージについて、
２点目に、特別史跡内のベンチ設置について、
３点目に、特別史跡入口手前の駐車場整備について、
４点目に、都市計画道路源町桜木線の計画内容について、
５点目に、これまでの取組み及び今後の予定について、
お聞かせください。



答弁

（1）坂月川に新設する橋と周遊路の整備イメージについて

まず、坂月川に新設する橋と周遊路の整備イメージについてですが、具体的な橋の設置場所や仕様等は今後の設計業務の中で検討することになっていますが、坂月川沿いに残る自然の景観を最大限に活かすことを考えております。また、新博物館から北貝塚までの距離が380ｍ程度あることを利点と捉え、人の目を引く造作物の設置等、魅力ある仕掛けづくりを検討して参ります。

（2）特別史跡内のベンチ設置について
（3）特別史跡入口手前の駐車場整備について

史跡内のベンチについては数が少ないうえ、配置に偏りがあると認識しております。また、新博物館の開館に伴い団体利用客が増えることが想定されるため、現在の臨時駐車場についても引き続き確保が必要と考えます。今後は、次期史跡整備基本計画を策定する中で、景観に留意しつつ、利用者等の声を伺いながら、適切なベンチの設置や、臨時駐車場内の利便性向上について、検討して参ります。

（4）都市計画道路源町桜木線の計画内容について

都市計画道路源町桜木線の計画内容についてですが、源町桜木線と国道51号バイパスの交差点から東側に約160メートル進んだ地点から、国道51号までの約210メートル区間について、幅員20メートル、車線は２車線、歩道と自転車レーンを両側に設置する計画としております。この整備により、加曽利貝塚までのアクセス機能が強化されるとともに、国道51号などの混雑緩和が図られるほか、地域の皆様にとっても、利便性や安全性が向上するものと考えております。

（5）都市計画道路源町桜木線の取組み及び今後の予定について

最後に、これまでの取組み及び今後の予定についてですが、昨年度、具体的な整備内容の検討を行うため、周辺の地形を把握するための測量のほか、道路の線形や構造などを決める設計を実施しました。現在、国道51号との交差部における信号制御等の交通規制について、千葉県公安委員会など関係機関と協議を行っているところです。この協議が整い次第、地元の皆様に整備計画をお示しするための説明会を開催することとしております。引き続き、必要な協議を進め、早期事業化を目指して参ります。

前田健一郎からの意見と要望

私が幼少期に通った加曽利幼稚園の恩師から、先日手紙を頂きました。手紙には「近隣住民、未来の子供たちのためにも、この素晴らしい加曽利貝塚を未来に引き継ぐことをしっかり頼みます」と書いてありました。地域で育ち、地域で暮らす人達にとって、加曽利貝塚はいつも身近で、かけがえのない宝物です。私は、恩師の言葉を胸に受け止め、これからも加曽利貝塚を守りつつ、魅力をより一層高めていくため、改めて頑張ろうと決意したところです。意見と要望を申し上げます。

まず、坂月川に新設する橋と周遊路の整備イメージについて、坂月川に広がる景観を活かしながら魅力ある仕掛けを設けるとのことでした。この考え方には賛成ですが、もう少し具体的に、坂月川に架かる橋を渡って史跡の中へと入るとき、まるで縄文時代にタイムスリップするような感覚になる仕掛けが出来ればと思っています。周遊路脇には加曽利貝塚から出土した縄文土器等のレプリカを設置するほか、大賀ハスを観賞できるよう環境整備すると、本市の都市アイデンティティの定着やアピールにもなると考えますので、今後の設計に反映していただきますよう、要望します。次に、特別史跡入口手前の駐車場整備についてです。当局においても、観光バス利用の団体客を念頭に、史跡側の駐車場整備を検討していくことが分かりました。観光バスが駐車する施設は一般的に、路面がアスファルト舗装され、トイレ等の休憩施設が設けられています。来訪者が、最初に目にするのは駐車場です。本市を代表する観光資源として、また国の特別史跡として相応しい「おもてなし」ができるよう、今後の着実な事業推進を期待します。最後に、都市計画道路源町桜木線の整備についてです。この道路が整備されることにより、史跡までのアクセス性が改善され、より多くの方にリニューアルした史跡の魅力に触れていただけると考えております。一方、遠方の方の通過交通と地元の日常使いの交通が適切にすみ分けられることで、歩行者等の安全性や快適性が向上するものと期待していますので、早期完成に向け、事業を推進していただくようお願いいたします。また、この都市計画道路が整備されることにより、周辺道路にも影響があるものと考えますので、地域の方々の安全性と利便性にもしっかりと配慮した計画としていただきますよう合わせて要望いたします。

市政に対するご意見をお寄せ下さい！　自由民主党千葉市議会議員団　前田 健一郎　TEL043-245-5480

発行：千葉市議会議員　前 田 健 一 郎　千葉市若葉区千城台南1-3-2　TEL043-312-1793